

令和5年度 第1回用語委員会 議事録

日時: 令和5年8月4日(金) 19:00~20:00

場所: Zoom 開催

出席

大鳥 精司(担当理事)、稲見 聡(委員長)、池上 章太、坂浦 博伸、鈴木 亨暢、鉄永 倫子、坂野 友啓、船尾 陽生、本郷 道生、中村 豊、野尻 英俊、森 幹士、南江堂(杉山 孝男、枳穀 智哉:部分参加)

欠席

小林 和克

報告事項

理事会報告(大鳥担当理事)

- ・脊椎脊髄用語辞典は、これまで5年毎の頻度で改定されてきた。現在の改定第6版刊行から3年が経過し理事会では改定第7版作成が指示されたので、2025年春の刊行に向けての改訂作業を開始する。
- ・出版形態として従来通りの冊子体か新たに電子媒体を作成するのか、検討を要する。

審議事項

1. 脊椎脊髄用語辞典(改訂第7版)の出版形態について(冊子体か電子媒体か?)

・大鳥担当理事が、出版関連会社6社を対象に、出版形態別の対応可否と費用について調査した結果を説明した。3社がいずれかの対応可能で、対応可能媒体と費用は以下の通りであった。

電子媒体:杏林社(費用200~3,000万円と大きな幅がある)、大村印刷(約369万円)。

冊子体:南江堂(改定第6版と同様に約1000万円、PDF版も学会ホームページの会員専用ページから閲覧可能)。

・大鳥担当理事の説明を参考にして審議を行った結果、改訂第7版は従来通り冊子体で作成することで全員の意見が一致した。(その理由は、単なる用語集ではなく用語辞典であり図も豊富に含まれるので冊子がふさわしい、冊子体でもPDF版が付属しPC等で閲覧可能なので電子媒体との違いは少ない、電子媒体の費用が高額になる可能性もある、電子媒体を作成する場合はゼロからのスタートでこれまでのノウハウが活かせず納期に不安がある、等)

2. 改訂第7版の作成方法の実際

- ・南江堂より、前回(第6版)における改訂作業の手順およびタイムスケジュールが説明された。

A. 改訂着手~改訂原稿完成まで

①改訂方針の確認【2023年秋・用語委員会】

⇒分担の検討・決定(メール審議)

②改訂用語(追加・削除・修正)の検討および各学会からの意見公募

③改訂用語の確認【締切:2023年内一杯】、修正原稿の執筆担当割り振り【分担ごとに集まり議論・メール審議】

- ④修正原稿の執筆【締切：2024年春】
- ⑤修正原稿の検討1【2024年4月・用語委員会】
- ⑥修正原稿の執筆・修正
- ⑦修正原稿の検討2
- ⑧クロスチェック
- ⑨クロスチェックの集約・原稿確定【用語委員会】
- ⑩外部（前用語委員、学会役員・評議員等）への校正依頼（※または⑭～⑮の段階で依頼）
- ⑪外部校正の集約【メール審議または用語委員会】
- ⑫南江堂へ最終原稿ご提出【締切：2024年10月】

B. 原稿確定後～刊行まで

- ⑬初校組み上げ
 - ⑭初校校正【各ご担当】
 - ⑮初校修正・再校組み上げ
 - ⑯再校校閲【委員長】
 - ⑰再校修正・三校組み上げ・内容確定
 - ⑱印刷・製本
 - ⑲刊行【目標：2025年4月脊椎脊髄病学会】
- ・上記の工程②に関し、**2023**年末までを締切として以下の作業に着手することを確認した。
 - ・学会抄録からの改訂用語候補の抽出：各委員の専門領域に即して、最近**1～2**年の抄録集から追加すべき用語を多めに抽出する。委員長が各委員の専門性を把握し、抽出対象領域が片寄らない様に配慮する。
 - ・現版（第**6**版）収録用語の点検：用語集の内容を分割し、**2**名ずつの担当で割り振り、掲載用語の記載変更や削除の必要性を点検する。分担はメール審議により希望を募って決定する。
 - ・工程③、④に関し、追加・変更用語の採否を**2024**年初頭にメール審議で行い、**2024**年**4**月までに修正原稿を執筆いただくことを確認した。
 - ・工程⑤に関し、次回委員会は**2024**年**4**月の**JSSR**または**JOA**総会時に対面で開催し、修正原稿の検討を行うことを確認した。

3. その他

- ・改訂作業用に、南江堂から用語事典（第**6**版）を委員の先生方へ**1**本ずつ献本することを確認した。
- ・**JSSR**の**Web**サイトにおいて用語事典の**PDF**がダウンロードできない（**Not Found**になってしまふ）ことが指摘されたため、大鳥先生から事務局に確認いただくことを確認した。

以上